

## 東南アジア、南西太平洋域津波による日本沿岸の波高分布

### Wave-height Distributions along the Japanese Coast due to SE Asia and SW Pacific Area Tsunamis

# 羽鳥 徳太郎

# Tokutaro Hatori

- H図において、津波マグニチュードを基準に各地域の波高偏差を調べると、フィリピン、ニューギニアおよびマリアナ海溝の津波では、伊豆諸島～西日本の波高が伝播距離の割に大きい。これは、波源からの直達波と島弧沿いに伝わるエンジ波が合成するからであろう。

父島の波高値は標準的であるが、沖縄諸島ではエネルギーが東シナ海へすり抜けて常に、小さくなっている。

一方ソロモン・ニューヘブリデスの津波は、マリアナ海溝沿いに伝わり、波高が順当に減衰して日本列島では小さい。しかし、フィリピン海溝沿いにM8クラスの巨大地震で津波を伴えば、関東～西日本で2m程度の波高に達する可能性がある。

- H図において、津波マグニチュードを基準に各地域の波高偏差を調べると、フィリピン、ニューギニアおよびマリアナ海溝の津波では、伊豆諸島～西日本の波高が伝播距離の割に大きい。これは、波源からの直達波と島弧沿いに伝わるエンジ波が合成するからであろう。

父島の波高値は標準的であるが、沖縄諸島ではエネルギーが東シナ海へすり抜けて常に、小さくなっている。

一方ソロモン・ニューヘブリデスの津波は、マリアナ海溝沿いに伝わり、波高が順当に減衰して日本列島では小さい。しかし、フィリピン海溝沿いにM8クラスの巨大地震で津波を伴えば、関東～西日本で2m程度の波高に達する可能性がある。